

研究者に科学的意義聴取

学術会議 検討委 社会的理解求める声も



【東京支社】日本学術会議が設置した国際リニアコ

ライダー(ILC)計画の見直し案に関する検討委員会(委員長・家泰弘日本学術振興会理事)は29日、都内で第3回会合を開いた。参考人から、ILC計画に対する国内外の関係する物理学者の評価やILC計画の科学的意義などについてのヒアリングを行った。

委員8人が出席。参考人

として東京大執行役・副学長の相原博明氏、量子科学技術研究開発機構の羽島良一上席研究員らが、高エネルギー物理や加速器学会でのILC計画の受け止めなどを説明した。

相原氏は、高エネルギー物理学の視点からILC計画によるビッグス粒子の精密測定的重要性を強調。

「国際研究者間でもILCの価値を高く評価している。科学的意義や概念設計の課題はクリアしたと考えており、各国政府との具体的な経費負担の交渉や計画

実施組織の設置という段階に進ませてほしい」と求めた。

委員からは「社会的な理解、合意を得る取り組みを進める必要がある」などの意見が出た。

会合後、家委員長は「参考人側からの『政府の意思表示がないと具体的な計画の策定に進めない』という意見と、委員からの『具体的な計画を決め、候補地の理解を得ないと決断は難しい』という指摘が堂々巡りになっている部分がある」と述べた。次回は9月11日

に開催し、論点整理を行う予定。